

下豊岡上後原遺跡

— 保育園増築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 —

2016

社会福祉法人 長豊会 みどり岡保育園

高崎市教育委員会

有限会社 高澤考古学研究所

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市下豊岡町字上後原 1353 番 5 に所在する「下豊岡上後原遺跡」（高崎市遺跡調査番号 634）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、保育園増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、社会福祉法人長豊会みどり岡保育園様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 角田 真也・針井 修・田辺 芳昭
有限会社 高澤考古学研究所 澤田 福宏
- 6 発掘調査は、平成 27 年 4 月 27 日から平成 27 年 5 月 7 日までの期間で実施した。調査面積は 18.8㎡である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田福宏が行った。執筆は I を高崎市教育委員会が、それ以外を澤田が行った。
- 8 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 9 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・関根 折夫・蓬田 保伯・渡 明秀
- 10 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の機関に協力を賜った。（敬称略、50 音順）
SO 建築工房 カワナベ工業株式会社
- 11 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿図中に使用した方位記号は座標北を示す。
- 2 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 3 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 4 第 4 図は土地利用計画図を一部改変して使用した。
- 5 掲載図の縮尺は、各図に示した通りである。
- 6 遺物実測図の縮尺は、遺物No横の（ ）内及びキャプション中に示した通りである。
- 7 遺物写真の縮尺は、およそ 1/2 である。
- 8 本書で使用した火山噴出物の記述は以下の通りである。
As-C …… 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」 Hr-FP …… 6 世紀中葉降下「榛名ニツ岳火山灰」
As-B …… 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」 As-A …… 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目 次

例言 凡例 目次

I 調査に至る経緯 …………… 1	IV 基本堆積土層 …………… 2
II 調査の方法と経過 …………… 1	V 調査の成果 …………… 3
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡 …………… 1	VI 総括 …………… 5

抄録 奥付

挿図・挿表・写真図版目次

第 1 図 周辺遺跡図 (1/25,000) …………… 2	第 8 図 3 号住居平面図・断面図 (1/60) …………… 4
第 2 図 遺跡位置図 (1/2,500) …………… 2	第 9 図 3 号住居カマド平面図・断面図 (1/30) …………… 5
第 3 図 基本堆積層写真及び柱状図 …………… 2	出土遺物図 (1/3)
第 4 図 遺跡全体図 (1/250) …………… 3	第 10 図 1・2 号土坑平面図・断面図 (1/40) …………… 5
第 5 図 1 号住居平面図・断面図 (1/60) …………… 3	
カマド平面図・断面図 (1/30)	第 1 表 1 号住居出土遺物図 (1/3) …………… 4
第 6 図 1 号住居出土遺物図 (1/3) …………… 4	第 2 表 2 号住居出土遺物図 (1/3・1/4) …………… 4
第 7 図 2 号住居平面図・断面図 (1/60) …………… 4	第 3 表 3 号住居出土遺物図 (1/3) …………… 4
出土遺物図 (1/3)	

PL1：遺構写真 PL2：遺構写真・遺物写真

I 調査に至る経緯

平成 27 年 1 月、社会福祉法人長豊会みどり岡保育園（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）に保育園増築予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。市教委は、照会地周辺が古墳・奈良～平安時代に至る散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地であるため試掘調査による確認を実施し、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

同年 1 月 30 日付けで事業者より試掘調査申込書が提出されたのを受けて、市教委は同年 2 月 19 日に工事予定地の試掘調査を実施し、古墳・奈良～平安時代集落跡の遺構を確認した。

試掘結果を受けて埋蔵文化財保護について事業者と協議を行ったが、計画変更は不可能ということなので、破壊される部分について記録保存の発掘調査を実施することで合意した。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監理の下、有限会社高澤考古学研究所に委託して実施することとなり、平成 27 年 4 月 22 日付けで高崎市長・事業者・高澤考古学研究所の三者協定を締結し、さらに協定に基づき同年 4 月 22 日付けで事業者と高澤考古学研究所の二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 調査の方法と経過

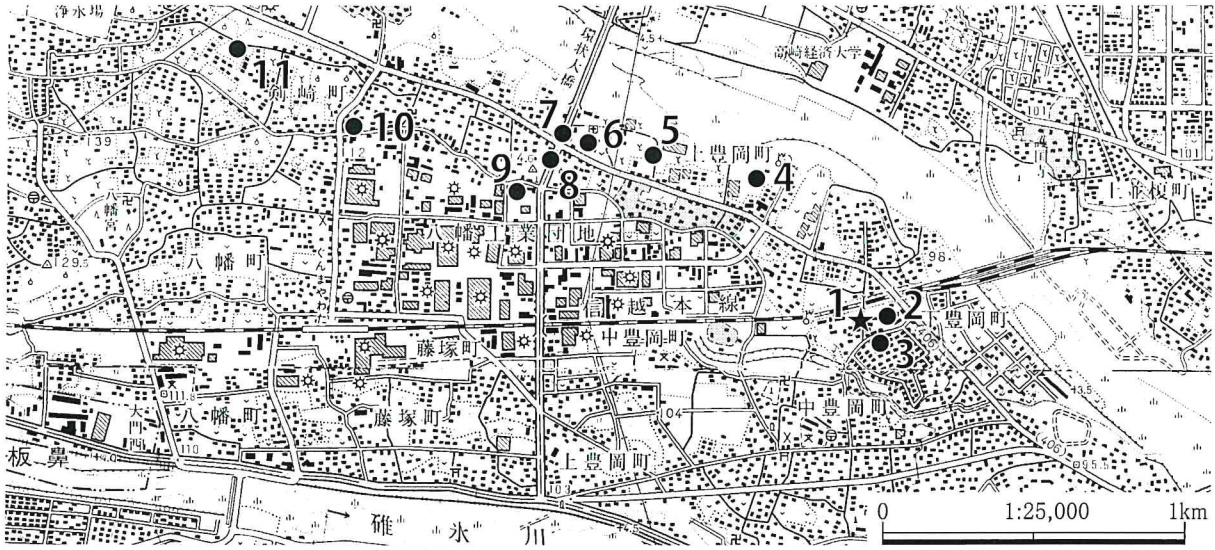
高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 90cm 下であることが確認されていた為、平成 27 年 4 月 27 日に重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘通り、古墳時代及び奈良・平安時代の住居跡を検出した。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺物は必要に応じて平面図を作成し標高を与え、写真記録を所得しながら調査を行った。写真は 35mm 小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの 2 種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は平板を使用し、土地利用計画図（1/500）に落とし込んだ。住居使用面での調査が終了した後、住居掘り方調査を行った。すべての調査が終了した後、全景撮影をし、基本堆積土層の確認の為、深掘り作業を行った。平成 27 年 5 月 1 日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け同年 5 月 7 日に現地調査を終了した。

III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

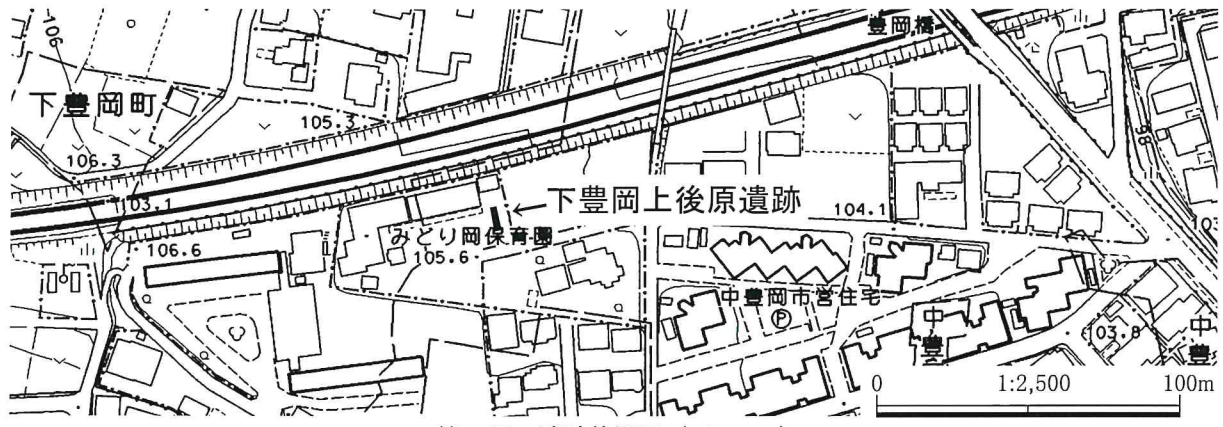
群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。下豊岡上後原遺跡は、高崎市街地より北西約 3km、烏川と碓氷川の両河川に挟まれた台地上に所在する。この台地は八幡台地と称され、安中市の秋間丘陵から連続する丘陵の先端部分で、本遺跡はこの台地の東側縁辺部に位置し、標高は約 105.50 m である。

周辺では、縄文時代から生活の痕跡を確認することができる。隣接している豊岡後原 I・II 遺跡（3）にて縄文時代中期後葉の住居跡が検出されている他、剣崎稻荷塚遺跡（11）等で確認されている。弥生時代後期後半以降遺跡が増加する傾向にあり、引間 I 遺跡（7）、引間 II 遺跡（8）、引間 III 遺跡（9）、引間 V 遺跡（6）、上豊岡引間遺跡 6（4）等で住居跡が検出されている。古墳・奈良・平安時代においては豊岡後原 I・II 遺跡で 169 軒の竪穴住居跡が検出されており、下豊岡後原 III 遺跡（2）でも密集して竪穴状遺構が検出されている。本遺跡周辺一帯は非常に遺構密度の濃い地域であると推測される。



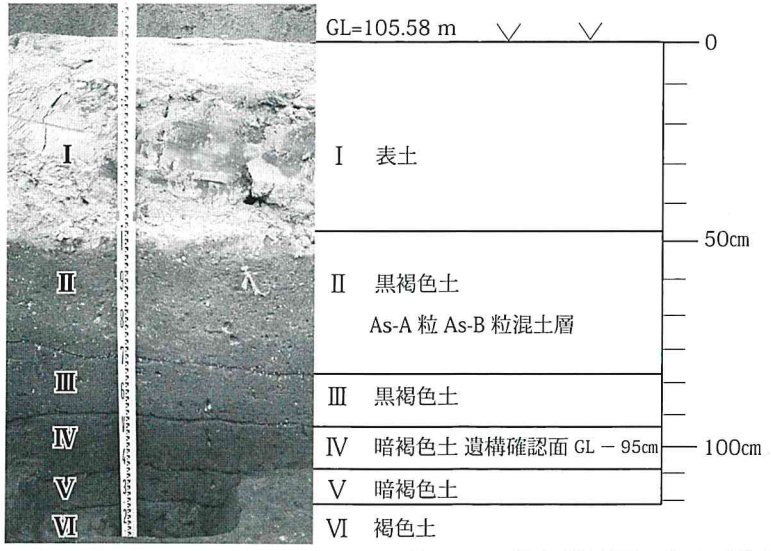
1. 本遺跡 2. 下豊岡後原Ⅲ遺跡 3. 豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡 4. 上豊岡引間遺跡 6. 上豊岡引間Ⅳ遺跡
 6. 引間Ⅴ遺跡 7. 引間Ⅰ遺跡 8. 引間Ⅱ遺跡 9. 引間Ⅲ遺跡 10. 剣崎天神山古墳 11. 剣崎稻荷塚遺跡

第1図 周辺遺跡図 (1/25,000)



第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層



I層は表土で約48cm堆積し、非常に硬く締まる。II層はAs-A粒及びAs-B粒の混土層で極少量であるが、3～5mm径の白色軽石(Hr-FPか)を含む。III層は黒褐色土で粒子の細かい白色軽石を含み、少量の黄色粒を含む。IV層は白色軽石(As-C粒か)及び黄色粒を含む暗褐色土で、本層上面が遺構確認面である。現地表から95cm下で、約15cm程堆積している。V層は暗褐色土で、粒子の細かい白色粒及び黄色粒を含み、VI層は褐色土の基盤層である。

第3図 基本堆積層写真及び柱状図

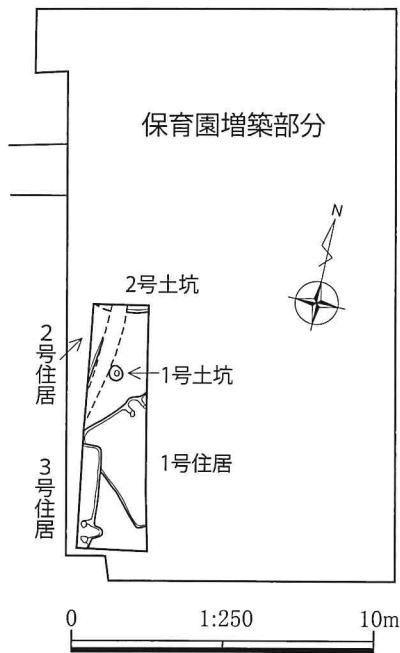
V 調査の成果

今回の発掘調査にて古墳時代から奈良、平安時代の竪穴住居跡を3軒、土坑2基を検出した。調査区北側で検出された2号土坑については竪穴住居跡の可能性も指摘される。各住居跡は床面までの深さが確認面から40cm以上あり、比較的良好な状態で検出された。旧地形の復元は難しいが、おおむね平坦で、北東方向に緩やかに傾斜している。

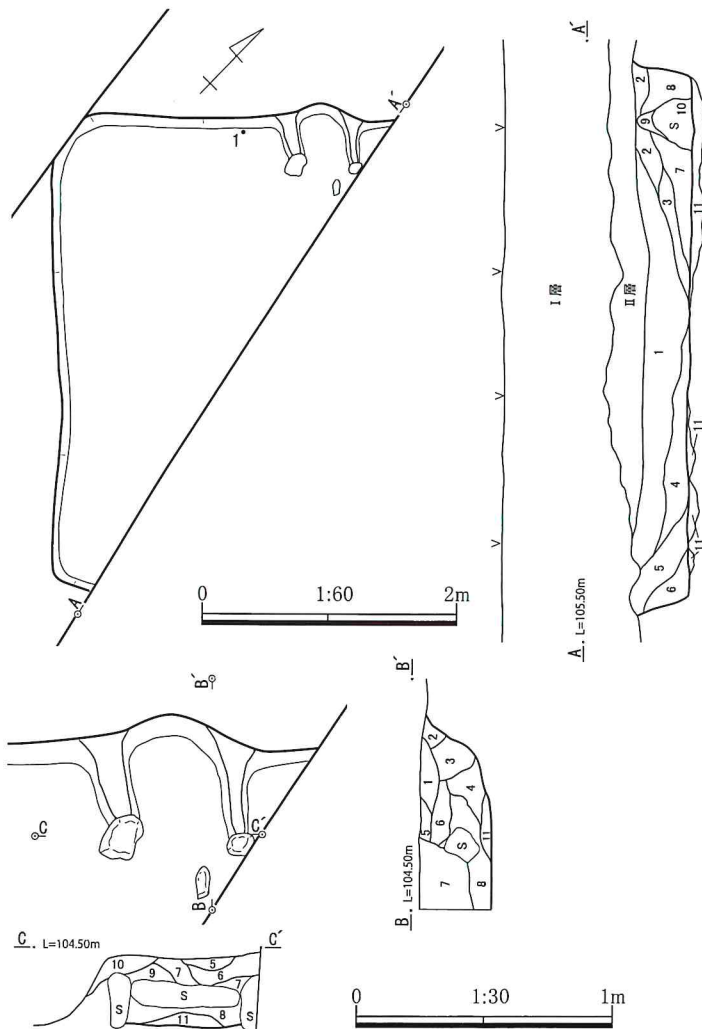
竪穴住居跡

1号住居

調査区中央で検出され、規模は南北3.61m、東西2.15m以上である。確認面から床までの深さは45cmで、平面は方形であると推測される。3号住居と重複関係にあり、本遺構の方が古い。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。カマドは住居北側に構築され、壁を若干掘り込んでいる。袖は地山褐色土を使用し、袖先及び焚口天井部は砂岩を使用して構築されている。焚口幅38cm、燃焼部幅35cmで壁は被熱の為、赤く焼土化している。底面に若干灰の堆積が認められた。住居の掘り方は浅く不整形で、カマド前が若干深くなる。遺物は床面よりNo.1が、カマドからNo.3が出土した。検出された遺物及び重複関係から帰属時期は6世紀後半から7世紀前半であると考えられる。



第4図 遺跡全体図 (1/250)



第5図 1号住居平面図・断面図 (1/60) カマド平面図・断面図 (1/30)

1号住居

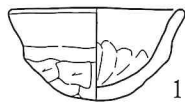
I層 現表土

II層 黒褐色土 As-A粒及びAs-B粒混土層

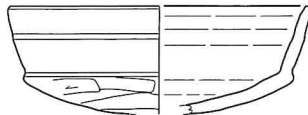
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、焼土粒を含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒及び炭化物粒を少量含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色粒及び地山褐色土小ブロックを少量含む。
6. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 黄色粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、焼土粒、地山褐色土小ブロックを含む。
9. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土主体で、焼土粒を含む。
10. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土主体で、焼土粒、炭化物粒をやや多く含む。
11. 褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。

1号住居カマド

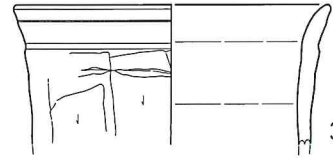
1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土粒及び黄色粒を少量含む。
2. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロック及び地山褐色土小ブロックをやや多く含む。
3. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰をやや多く含み、焼土粒及び炭化物粒を含む。
4. 暗赤褐色土 粘性弱・しまりややあり 焼土小ブロックをやや多く含み、炭化物粒及び灰を少量含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、焼土粒を含む。
6. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土主体。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 住居覆土7と同じ。
8. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 炭化物粒及び焼土粒をやや多く含み、黄色粒を含む。
9. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 黄色粒、炭化物粒を含む。
10. 暗褐色土 粘性弱・しまり弱 黄色粒、炭化物粒を含む。
11. 暗赤褐色土 粘性弱・しまり弱 灰及び焼土粒を多く含み、黄色粒を含む。



1 (1/3)



2 (1/3)



3 (1/4)

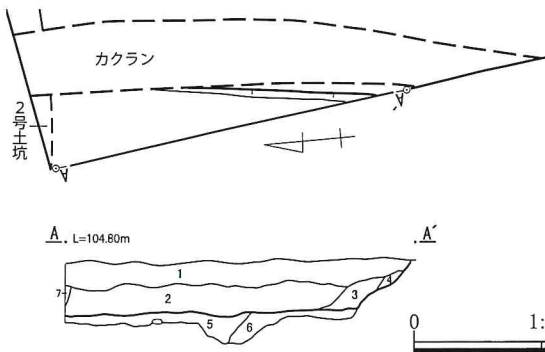
第6図 1号住居出土遺物図 (1/3・1/4)

第1表 1号住居遺物観察表 (単位はcm)

番号	種別 機種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土 焼成・色	特徴
1	土師器 坏	1号住居 床面	7.0・— 3.7	外面：体部ヘラ削り 口縁部ヨコナデ 内面：体部ナデ 口縁部ヨコナデ	細砂粒・黒色粒 良・にぶい黄褐色	器肉やや厚く、歪みあり。
2	土師器 坏	1号住居 覆土	12.0・— —・〈4.3〉	外面：体部ヘラ削り 口縁部ヨコナデ 口縁部に沈線 内面：体部ナデ 口縁部ヨコナデ	細砂粒・黒色粒 良・にぶい黄褐色	二重口縁状 底部に黒斑あり
3	土師器 甗	1号住居 カマド覆土	17.8・— —・〈7.4〉	外面：体部縦方向のヘラ削り 口縁部ヨコナデ 口縁部に沈線 内面：ヘラナデ後ナデ	細砂粒・雲母・白色粒 良・橙色	口縁部沈線あり

2号住居

調査区北西にて検出された。2号土坑と重複関係にあり、本遺構の方が古い。大部分が調査区外及び攪乱により破壊されている為、規模及び付帯施設の詳細は不明である。確認面から床までの深さは42cmで、床面は平坦で硬く硬化している。住居の掘り方は浅く不整形である。遺物は覆土中よりNo.4が出土した。また、床面には菰編み石と考えられる礫が確認された。検出された遺物から帰属時期は6世紀後半から7世紀前半であると考えられる。



2号住居

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、炭化物粒を僅かに含む。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含む。
4. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを少量含む。
5. 褐色土 粘性弱・しまりあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含む。
6. 褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒を多く含む、炭化物粒を僅かに含む。
7. 暗褐色土 2号土坑覆土1層と同じ。



4 (1/3)

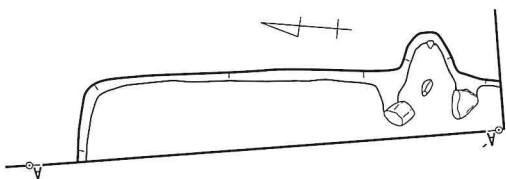
第7図 2号住居平面図・断面図 (1/60) 出土遺物図 (1/3)

第2表 2号住居遺物観察表 (単位はcm)

番号	種別 機種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・〈残高〉	整形・調整・文様等	胎土 焼成・色	特徴
4	須恵器 坏	2号住居 覆土	14.2・— —・〈3.1〉	外面：体部下回転ヘラ削り 体部上轆轤整形 内面：轆轤整形	細砂粒・白色粒 良・灰色	

3号住居

調査区南西にて検出され、規模は南北3.35m、東西67cm以上である。確認面から床までの深さは41mで、平面は方形であると推測される。1号住居と重複関係にあり、本遺構の方が新しい。柱穴及び壁周溝は検出されなかった。カマドは住居東側に位置し、壁を約30cm掘り込んで構築されている。袖は地山褐色土を使用し、両袖先は河原石を立てて焚口が構築されている。焚口幅45cm、燃燒部幅40cmで、中央部に支脚が埋設されている。壁は被熱の為、赤く焼土化し、底面に灰の堆積が認められた。住居の掘り方は浅く不整形である。遺物は覆土よりNo.5が出土した。検出された遺物及び重複関係から帰属時期は8世紀末から9世紀前半であると考えられる。



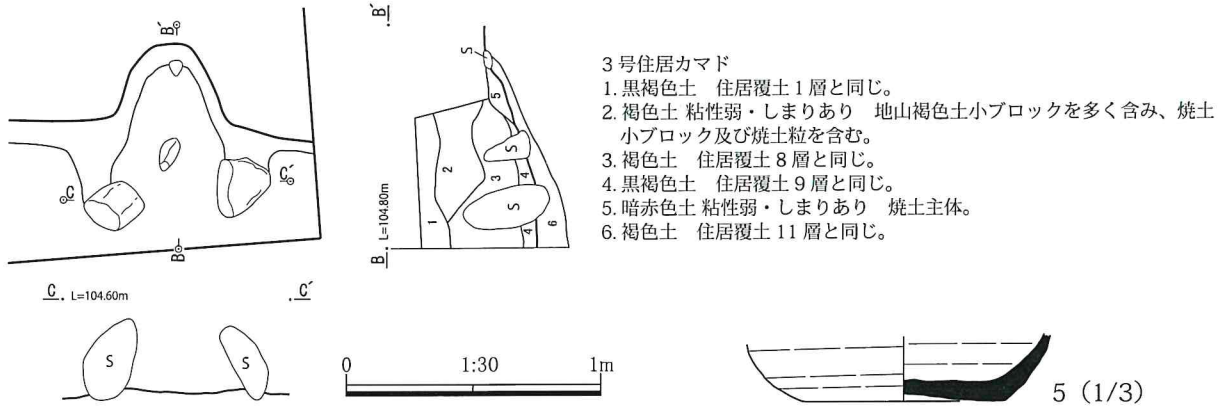
A. L=104.80m

0 1:60 2m

第8図 3号住居平面図・断面図 (1/60)

3号住居

1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かにふくむ。
2. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び黄色粒、炭化物粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。
3. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び黄色粒をやや多く含む。
4. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 炭化物粒及び焼土粒を少量含み、地山褐色土小ブロックを僅かに含む。
5. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土小ブロック及び焼土粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロックを含む。
6. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 炭化物粒及び焼土粒を少量含む。
7. 暗褐色土 粘性弱・しまりあり 炭化物粒及び焼土粒をやや多く含み、地山褐色土小ブロック、黄色粒を含む。
8. 褐色土 粘性弱・しまりあり 焼土小ブロック及び地山褐色土小ブロックを多く含み、灰、炭化物粒を含む。
9. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰を多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。
10. 黒褐色土 粘性弱・しまり弱 灰及び炭化物粒を多く含み、焼土小ブロックを少量含む。
11. 褐色土 粘性ややあり・しまりあり 地山褐色土小ブロックを多く含み、焼土粒、炭化物粒を含む。



第9図 3号住居カマド平面図・断面図(1/30) 出土遺物図(1/3)

第3表 3号住居遺物観察表(単位はcm)

番号	種別 機種	出土遺構 出土層位	口径・底径 器高・<残高>	整形・調整・文様等	胎土 焼成・色	特徴
5	須恵器 坏	3号住居 覆土	—・8.0 —・<2.7>	外面：轆轤整形 底部右回転糸切後未調整 内面：轆轤整形	細砂粒・白色粒 やや軟・にぶい橙色	底部凸状

土坑

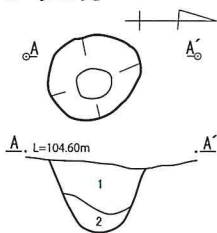
1号土坑

調査区中央にて検出された。規模は径48cmの円形で、確認面からの深さは39cmである。覆土にはAs-B粒は含まれない。遺物は検出されなかった。

2号土坑

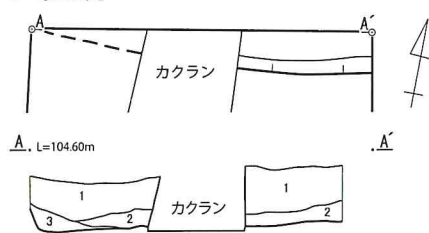
調査区北にて検出された。2号住居と重複関係にあり本遺構の方が新しい。大部分が調査区外及び攪乱により破壊されている為、規模等の詳細は不明である。2号住居と重複する西側の平面プランは不明瞭な為、平面図は破線で表記した。壁の立ち上がりが急で底面が平坦である為、竪穴住居跡の可能性が考えられる。覆土にはAs-B粒は含まれず、土師器の小破片が検出されている。

1号土坑



- 1号土坑
1. 黒褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び炭化物粒を少量含む。
 2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックを多く含む。

2号土坑



2号土坑

1. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 白色軽石及び炭化物粒を少量含む。
2. 暗褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロック及び炭化物粒を少量含む。
3. 褐色土 粘性弱・しまりややあり 地山褐色土小ブロックをやや多く含み、白色軽石を少量含む。

第10図 1・2号土坑平面図・断面図(1/40)

VI 総括

本遺跡は豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡及び下豊岡後原Ⅲ遺跡と約100mの距離にあり、両遺跡と同一集落であると考えられる。周辺一帯は広域に当該期の集落が広がっているものと推測される。



1号住居Aセクション 北西から



1号住居カマドセクション 南から



1号住居カマド全景 南東から



1号住居全景 南東から



1・3号住居掘り方全景 南東から



2号住居全景 北から



3号住居Aセクション 北東から



3号住居カマドセクション 北から



3号住居カマド全景 垂直



3号住居カマド全景 北から



3号住居全景 南から



調査区全景 南から



1



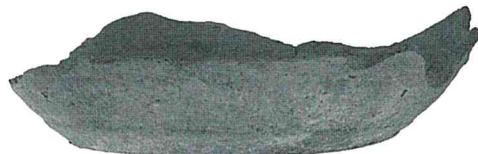
2



3



4



5

参考文献

群馬県史編さん委員会 1990『群馬県史 通史編 1 原始古代 1』群馬県

高崎市教育委員会 1998『高崎市遺跡分布図』高崎市内遺跡詳細分布調査報告書高崎市教育委員会

関口 修 池田 敬 1998『豊岡後原 I・II 遺跡』高崎市教育委員会

高崎市市史編さん委員会 1999『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代 I』高崎市

高崎市市史編さん委員会 2000『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代 II』高崎市

斎藤 寛方 倉石 広太 2008『下豊岡後原 III 遺跡』高崎市教育委員会

田口 一郎 笠原 仁史 2010『上豊岡引間遺跡 6』高崎市教育委員会

報告書抄録

フリガナ	シモトヨオカ カミゴハラ イセキ
書名	下豊岡上後原遺跡
副書名	保育園増築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 367 集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005 群馬県高崎市浜尻町 930 番地 6
発行年月日	平成 28 (2016) 年 3 月 31 日

所収遺跡名	下豊岡上後原遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市下豊岡町字上後原 1353 番 5						
市町村コード	遺跡番号	北 緯	東 経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	634	36° 20' 17.2"	138° 58' 34.5"	20150427	20150507	18.8㎡	保育園増築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
下豊岡上後原遺跡	集落	古墳～ 平安時代	竪穴住居跡 土坑	土師器 須恵器	

— 下豊岡上後原遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 367 集

平成 28 年 3 月 25 日 印刷

平成 28 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 有限会社 高澤考古学研究所

印刷・製本 上武印刷株式会社

